



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長/矢島 實
- 副会長/矢島 進・井上保子
- 幹事/矢崎宏明
- 会報・雑誌・広報委員長/笠原祥一

- 事務所/岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939・URL:<http://okayarc.org>・E-mail:okayarc@amber.plala.or.jp
- 例会/毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2511 回例会 2011 年 (平成 23 年) 2 月 22 日 (火)

点 鐘 : 矢島 實 齊 唱 : それでこそロータリー
司 会 : 小口泰史 ラッキーNo. : No.18 林 靖高

会長挨拶

今日の会長あいさつは、最初で最後のロータリークラブ会長らしいあいさつをします。

明日がロータリー創立記念日です。1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。それからは、志を同じくするクラブがつぎつぎと各地に生まれて国境を超え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数33,995、会員総数1,213,608人(2010年10月31日RI公式発表)に達しています。

わが国最初のロータリークラブは、1920(大正9)年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって再び復帰加盟します。

現在、日本全体でのクラブ数は2,301、会員数91,015人(2010年11月末現在)となっています。

また、16.17日とクラブの有志で親睦を図って参りました。当日二日間とても良い天気です。素晴らしいゴルフ日和でした。親睦委員長の宮澤さんには大変ご苦勞をかけてしまいました。参加者の皆様ありがとうございました。

会長報告

- ・ 2/20 茅野 RC 創立 30 周年式典に幹事とともども参加して参りました。

幹事報告

- ・ 2012-2013 年度のガバナー・ノミネーが島田甲子雄氏(上田 RC)に決定したとの報告がありました。
- ・ 3月のRレートは1\$84円です。
- ・ ラッキーNo. の携帯箸が壊れていたという方は申し出て下さい。交換します。
- ・ RIより「国際ロータリーとロータリー財団の2009-2010年度年次報告書」が届きましたので回覧します。また、2010-2011年度地区大会報告書が届きました。レターケースに入れてあります。ご覧下さい。

委員会報告

親睦委員会 先日有志による遠征ゴルフコンペに参加頂きありがとうございました。委員会の皆さんもお疲れ様でした。とても好評でゴルフ同好会を作らないかとの声も上がりました。また、3/27(日)は親睦バスハイク「川越の蔵の町と三井アウトレット入間」を計画しています。奥様もお子様にも楽しんで頂けると幸いです。今から予定に入れておいて下さい。(詳細は後日)



卓話「自己紹介」

林 広一郎 会員

本日は皆さまの貴重なお時間を頂き、お話をする事となりました。このようなことは初めてであり、何を話してよいのか分からないまま、今日を迎えてしまいました。まだ入会して5ヶ月ばかりです。何はともあれ私を知ってもらおうということで、自己紹介かたがた「入会のいきさつ」「私の生い立ち」そして「勤務先の紹介」等、お話ししたいと思います。

《入会のいきさつ》

昨年10月5日の例会に初めて出席させて頂いた折、簡単な入会のあいさつを致しました。あの時はとても緊張しており、しどろもどろに「お誘いのお話を頂いた時には、まだ若輩者なのでとご遠慮申し上げましたが、これも一つのご縁と思い入会させて頂きました。」というような内容のお話を致しました。それに間違いはないのですが、やや言葉足らずな点もあったと思いますので、改めて入会のいきさつをお話しします。

最初にお誘いのお話を頂いたのは、昨年7月市内のある会合にて、矢島實会長様と林裕彦会員様にお会いした時です。突然のことであり、とても驚きました。岡谷ロータリークラブのことは、祖父：清市や父：慎次郎が以前お世話になっていたこともあり、存じ上げてはおりました。ただこれまでの私は、青年会議所等この種の地域活動には縁遠かったこともあり、このような話は自分には縁のないことだと思っていました。そのためどうしたものか判断がつかねたため、父に相談してみたところ「日々の勤めの方は4年前ようやく役員に就いたばかりであり、今はまだ先輩役員皆さんの下で、修行中の立場にある。その点をよく考えたらどうか。」と諭され、その時点でこの話は、しばらく時間をかけて考えようと思うこととしました。

しかしその後しばらくして、今度は宮坂宥洪会員様より、ご自身の入会のいきさつ：石井巖さんのお誘いで入会されたというお話をお聞きするにおよび、動かざるを得なくなってきました。石井さんは、私の勤務先：マルヤス機械(株)の第4代社長(在任期間：昭和58年3月～平成元年3月)であり、私も入社する時には大変お世話になりました。私が今こうして居られるのも、石井さんのおかげと言っても過言ではありません。残念なことに平成15年3月にご他界されましたが、もし今も存命であれば今回の件を御相談申し上げていたら「林君、あれこれ心配するのも良いが、取りあえず一步踏み出してみたらどうか。もしそれで何か都合が悪いことが出てきたら、その時はその時でまた考えて対応すれば良いではないか。」そう言って下さったような気がして、迷う気持ちに踏んぎりをつけて、入会させて頂くこととなりました。このような経緯がありましたので、入会のあいさつの折、「ご縁」という言葉を使わせて頂きました。よろしくお願い致します。

《私の生い立ち》

私は、1960年(昭和35年)2月2日生まれで、現在51歳です。畏れ多いことではありますが、皇太子徳仁親王(こうたいし なるひとしんのう)＝浩宮さま(2月23日生まれ)と同年同月生まれになります。

私は、父の勤めの関係で小学校2年まで横浜に過ごしました。そして小学校3年の時に、父がマルヤス機械に勤めることになり、この岡谷に引っ越してきました。小学校・中学校時代、岡谷・諏訪地方の歴史を学習していく中で、明治・大正そして昭和の初めまで、ここ岡谷が、当時日本の輸出の花形商品であった生糸の一大生産地であったこと、そしてこの地の先人の方々のひたむきな努力と苦勞により、「シルク岡谷」の繁栄が築かれたことを知りました。また「女工哀史」的な側面の話も聞くこともあり、私たち人間の営みが、見る立場や価値観により、様々な評価の仕方あるのだということを学ぶこととなりました。

昭和53年3月に高校を卒業後、東京都八王子市にある大学に進学しました。昭和50年代の八王子をはじめとする多摩地区は、今から比べればまだ武蔵野の面影が色濃く残っており、良い意味で自

然に恵まれた学生生活を送ることができました。その一方で初めて利用するコンビニエンスストア、初めて食するマクドナルドのハンバーガーや吉野家の牛丼、そして喫茶店のインベーダーゲーム等が、とても新鮮に感じました。ところでこの学生時代に八王子出身の友人より、八王子から町田そして横浜に至る約 40km の道(通称:浜街道、現在の町田街道、国道16号に相当)を、「絹の道」と言うのだと教えられたことは、私にとって印象に残る話となりました。幕末から鉄道が発達する明治の中頃までの間、長野県・山梨県・群馬県そして八王子で生産された輸出用生糸は、この「絹の道」を通過して横浜に運ばれたそうです。そのため地元ではその歴史的な意義を伝えようと、そのように呼んでいるそうです。岡谷で生産された生糸も甲州街道を通過して八王子まで行き、この「絹の道」を通過して横浜へ運ばれたことになります。その後 1905 年(明治 38 年)に中央東線が岡谷駅まで開通し、その 3 年後 1908 年(明治 41 年)には八王子～東神奈川間:今の横浜線が開通することにより、輸送手段は鉄道に移っていくわけですが、生糸の輸出に関わる物流という面で、自宅のある岡谷と幼少の頃住んでいた横浜が密接に繋がっていたことがわかり、偶然とは言えうれしく感じたことを今でも覚えています。

学卒後は U ターンする形で岡谷に戻り、職業人生を歩み始めることとなりました。最初の 6 年ほどは当時、諏訪市のあった金型メーカー様にお世話になり、元号が「昭和」から「平成」に変わる 2 か月前の昭和 63 年 11 月、先ほどお話ししたように、石井さんが社長在任中にマルヤス機械(株)に入社し、現在に至っています。

入社後、技術・生産管理・営業・商品開発・積算・原価管理・経理等、様々な職種を経験しました。ただあちこちの職場を転々としている内に、何か上っ面だけの仕事をしているような気がしてきて、いったい自分には何ができるのだろうか、30 代半ば～40 代初めにかけて、気分的に落ち込んだ時期もありました。しかしそのことで、ふっと肩の力が抜けたのでしょうか、何事かを為すのではなく、ただそこに居ることの意味合いですとか、ただ居てくれることのありがたみを感じられるようになりました。また良い面ばかりではなく悪い面も含めた自分を、大事にすることができるようになったと思います。

《勤め先:マルヤス機械(株)の紹介》

当社の事業目的は、搬送省力機械、自動化機器の製造・販売です。

従業員数は現在約 380 名です。その内訳は成田町にある本社・岡谷工場に 320 名、東京・名古屋・大阪をはじめとする日本国内 10 ヶ所の支店・営業所に 60 名が在籍しています。

当社は、戦前(明治 20 年代末～昭和 10 年代)は製糸機械メーカーとして、戦後(昭和 20 年代後半から現在に至るまで)はコンベヤメーカーとして、工場や事業所で使って頂く(産業)機械の製造・販売に、一貫して取り組んで参りました。当然お客さまは法人ということであり、一般の方への当社の知名度は、ここ地元、岡谷・諏訪でもあまり高くありません。若い社員からは、会社のカラーが少々地味ではないか、また地元の皆さんへの PR が少々足りないのではないかとと言われることもあります。そこで最近では、先週テクノプラザおかやで行われた「ものづくりフェア」や、毎年秋に上諏訪で開催される「諏訪圏工業メッセ」のような地元の催しに、出来るかぎり参加するようにしています。

それでも当社は、幸いなことに当社の技術力を認めて下さるお客さまに恵まれて、コンベヤ専門メーカーとして、今日まで約 50 年間、技術と経験を積み重ねてくることができました。

昭和 20 年代～30 年代は、工事現場等で使う土石運搬用コンベヤの生産を手始めに、農協向け米俵運搬用コンベヤの製造・販売により、コンベヤ専門メーカーとしての基盤作りを行いました。そして昭和 40 年代～60 年代には、家電製品・音響機器製品・精密機器製品の大量生産に対応するための搬送設備に取り組み、平成に入りバブル景気最盛期の頃には、テレビのブラウン管搬送設備も手掛けたりしました。しかしバブル崩壊後、お客さまの生産拠点が海外に移転するに伴い、国内の衛生管理の厳しい食品工場向けコンベヤに生産のウエイトが移り、ここ数年は液晶テレビ用のガラス基板搬送設

備も手掛けています。このように当社は、その時々を経済状況に応じて、さまざま製品を運ぶコンベヤ（搬送設備）の製造・販売に携わってきました。地味ではありますが「搬送（物を運ぶ）」ということにこだわりを持ち、お客さまの生産現場において無くてはならない機械を、これまで納めさせて頂きましたし、これからもそう有りたいと考えています。

「和して同ぜず」ということについて

皆さまはこの言葉をご存知のことと思います。祖父：清市は家で、あまり訓戒めいたことは言わなかったのですが、この言葉だけは聞かされた覚えがあります。成田町の岡谷工場には約 300 名を超える社員が働いています。その一方で当社のお客さまの 9 割方が長野県外であり、主に関東、東海、関西地区にあります。そのようなことから祖父は「日々工場がつつがなく操業でき、社員やそのご家族が元気で無事に暮らしていかれるのは、地元の皆さん（行政、医療、教育、金融そして商工業の皆さん）のおかげである、そのことに十分感謝して、皆さんと仲良くすることは大切なことである。その一方で、私たちは私たちなりの営業・生産活動をしていかなければいけない。そのためには、自分たちのやるべきことを十分見極め、『和して同ぜず』の心持ちで精進していくことが大事である。」そのようなことを言っておりました。私などいつも周りの状況に流されるばかりで、どれだけ実践できているのかと思うと、反省することしきりです。これを機会に今一度、肝に銘じていこうと考えています。

《最後に》

本日はこのような機会を頂きありがとうございました。皆さまの前でお話しをするということで、自己紹介並びに普段何気なく感じていることを、言葉で表そうとしましたら、思いの外、てこずってしまいました。まとまりのない話になってしまい申し訳ありません。でも自分の人生を改めて振り返ることができたことは、私自身にとって本当に有意義でありました。これからもご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

ニコニコボックス

林広一郎 本日卓話よろしくお願ひします。

矢島 實・宮澤由己・竹村一幸 遠征親睦ゴルフご苦労様でした。思いがけない好天に恵まれ楽しい遠征ができました。

宮坂宥洪 当クラブにあやかって市内の小中学校に図書を寄贈しました。

牛山幸一・梅垣和彦・太田博久・大橋正明・小口泰史・尾関秀雄・笠原祥一・笠原新太郎・北澤洋之介・北村正春・小松正二・白鳥修次・杉田隆夫・高木昭好・竹村一幸・中嶋孝一・中村文明・濱 透・濱 俊弘・林 裕彦・林 靖高・原 史郎・藤森睦美・宮坂宥洪・宮坂宥澄・宮澤由己・矢崎宏明・矢島 實・山岡晴男・山岡正邦・山岸邦太郎・山崎典夫 井上保子さんバレンタインデーのチョコレートありがとうございました。

井上保子 皆様に喜んでいただけてうれしいです。

出席報告

会員数 46 名、出席者 35 名、出席率 76.09%、前々回訂正 69.56%